



平成25年度

和歌山県地域医療再生計画の概要

- 事業内容

- 地域医療再生計画に基づく事業を実施していく中で、計画作成時（平成22年度）以降に生じた状況変化等に対応

- 「災害医療対策の強化」、「在宅医療の推進」、「医師確保対策」を柱に計画（案）を策定

- 事業期間 平成25年度に開始する事業（最長27年度）

- 計画額 12.5億円（国予算額500億円）

災害医療対策の強化 16.0億円（基金8.7億円）

【現状と課題】

- 南海トラフの巨大地震では、これまでの想定を大幅に上回る津波・被害が予想
- 災害拠点病院等の診療機能の維持確保対策や医療情報の保全等が喫緊の課題

【目標】

- 災害時のライフライン及び医療体制の確保
- 災害医療訓練や研修会等を通じて、顔の見える関係の構築

【具体的な施策】

1. 災害拠点病院等の機能充実・強化 1,070百万円(基金535百万円)
 - ✓ 救急及び透析患者の受入に備えた自家発電装置や貯水槽の機能充実・強化
 - ✓ 傷病者の受入・搬送に必要なヘリポートの整備
2. 災害訓練、広域搬送訓練の実施 30百万円(基金30百万円)
3. 災害時の診療データの保全 474百万円(基金278百万円)
 - ✓ きのくに医療連携システム「青洲リンク」の拡大・強化等
4. 災害用医薬品等備蓄の推進 29百万円(基金29百万円)
 - ✓ 災害拠点病院等に災害時に活用する医薬品、口腔ケア用品を備蓄



在宅医療の推進 2.8億円（基金2.8億円）

【現状と課題】

- 国民の6割以上が自宅での療養を希望
- 自宅等での介護を希望する人も4割を超えている
- 在宅医療に関する相談や急変時の対応など、地域でのサポート体制が十分ではなく、患者や家族の負担・不安が大きい

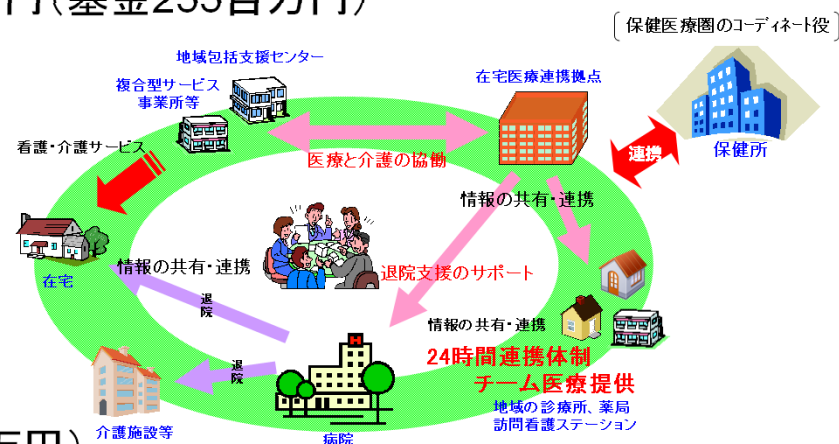
【目標】

- 二次保健医療圏単位に在宅医療連携拠点を設置し、24時間サポート体制を整備
- 在宅医療を担う人材の育成

【具体的な施策】

1. 在宅医療・介護の連携体制の整備 255百万円（基金255百万円）

- ✓ 在宅医療連携拠点の設置
- ✓ 医療と介護の連携会議
- ✓ 地域包括支援センターの機能強化
- ✓ 訪問看護サポートセンター運営
- ✓ 在宅支援薬局の推進
- ✓ 地域包括ケアシステムの調査・分析



2. 在宅を担う人材の育成 21百万円（基金21百万円）

- ✓ 患者・家族を支える医師、歯科医師、薬剤師、看護職、リハビリ職種、ケアマネジャーなどのチームケア体制を実践するための研修会の実施

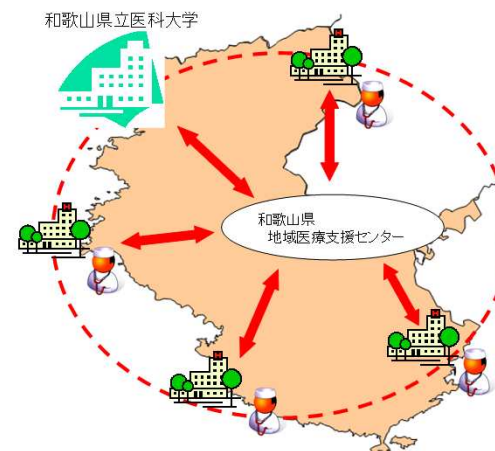
医師確保対策 1.0億円（基金1.0億円）

【現状と課題】

- 人口10万人対の医師数は259.2人（H22.12現在）で全国平均より高いが、病院勤務医の確保が課題
- 和歌山県立医科大学に県民医療枠20名・地域医療枠10名、近大医学部に和歌山県枠10名を設置
- 和歌山県地域医療支援センターを設置し、医師のキャリア形成支援に取り組んでいるが、プライマリ・ケアに関する研修体制が十分ではない

【目標】

プライマリ・ケアに関する研修体制を整備



【具体的な施策】

1. プライマリ・ケアに関する卒後研修体制の充実 50百万円（基金50百万円）
 - ✓ 地域医療支援センターを中心に、地域の医療機関と連携し、プライマリ・ケアに関する研修体制を整備
2. 和歌山県立医科大学地域医療枠学生への修学資金制度の継続
52百万円（基金52百万円）